

# 「ノンシャワー育苗」でイチゴ炭疽病を防ぎます

イチゴは夏期の暑い時期に育苗を行います。その育苗は株間の狭い風通しの悪い中で株の上から灌水する（頭上灌水）方法で行われています。一方「炭疽病」は苗が枯れてしまう非常に怖い病気です。高温多湿条件で発病し、苗が濡れることで孢子が発芽し、水しぶきで飛散伝染します。このため、真夏の暑い時期に上から灌水すると「炭疽病」の発生、伝染を助長します。そこで、当センターではポットの下から水を給水させ苗を濡らさず灌水する「ノンシャワー育苗」を開発しました。

## 「ノンシャワー育苗」の主な概要

### (1) 育苗ベンチの構造

- ・雨よけハウスの高設ベンチ構造

### (2) ベンチのシート構造

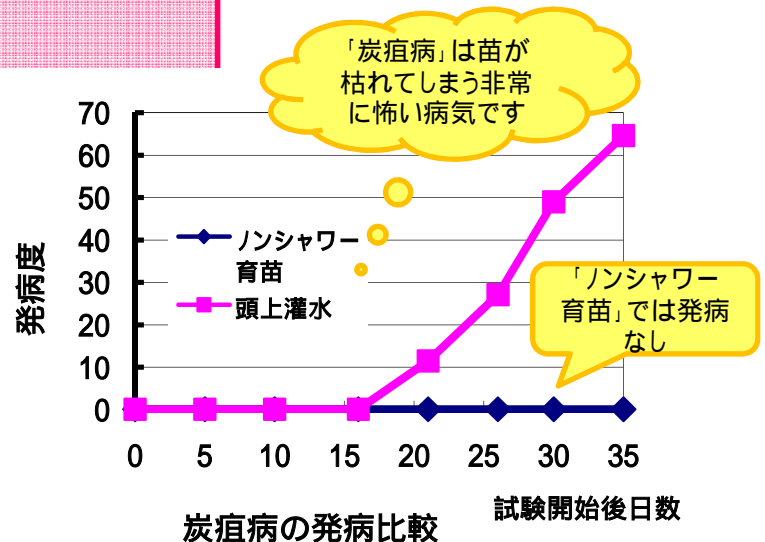
- ・エキスパンダメタルの上に黒マルチ、底面給水シート、有孔マルチ、防根透水シートを順番に重ねて設置
- ・シートの上に点滴灌水チューブを設置して給水

### (3) 親株栽培槽

- ・不織布製桶状栽培槽
- ・ヤシガラ培地を使用

### (4) 育苗方法

- ・受けポット方式の採苗
- ・無肥料の培地を使用
- ・ロングトータル肥料を使用



## (研究成果)

- ・灌水は、頭上からでなく底面から給水させるため「炭疽病」の発生がほとんどありません。
- ・「ノンシャワー育苗」で育苗した苗の本ぼでの生育・収量は良好で従来の受けポット育苗方式と変わりません。
- ・採苗は受けポット方式で行い、親株から子苗育成を通じて頭上灌水は行いません。
- ・ベンチの設備経費は、1万株育苗施設規模でベンチ骨組み、底面給水用資材費合計で施設で約70万円となります。